

能美市照隅会とのタウンミーティング

日 時 令和7年7月25日（金）16:35～17:10

会 場 まつさき

参加人数 38人

1) 開会

2) 市長 市政報告

○主なできごと

- ・2005年に能美市が誕生し、寺井庁舎の前で3町長がそろって除幕式を行った。
- ・2015年には、10周年の式典を行った。また、同じ年に北陸新幹線が金沢開業している。その翌年には、マイナンバーカードが発行された。
- ・2017年はロシアのシレホフ市と親善50周年、姉妹都市提携40周年という節目の年であった。
- ・2018年は、夏の甲子園が始まって100年という記念すべき年であり、「栄冠は君に輝く」の作詞者「加賀大介」さんのタイムカプセルを開けた。
- ・2019年には令和がスタートし、2020年には「SDG s 未来都市」に選定された。
- ・2020年に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックは、コロナの影響で1年遅れて、無観客で開催された。能美市からはライフル射撃の平田しおり選手が出場された。また2020年は、保育園の民営化をスタートした年であり、福島保育園が民営化した。今新たに3つの保育園の民営化に取り組んでいる。
- ・2023年は、加賀立国・能美誕生から1,200年という節目であった。
- ・2024年には、北陸新幹線の石川県内全線開業を記念し、「折り紙で作った電車の最多展示」としてギネス世界記録に認定された。

○自然災害など

- ・2018年の豪雪、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大、2022年8月の豪雨災害、2024年元日の能登半島地震など、これまで様々な自然災害があった。
- ・今年、熊の出没が相次いでいる。

○市勢状況

- ・人口動態では、自然動態がマイナスになっている一方、社会動態は新型コロナウイルス感染症の拡大時に大きく減りはしたが、以降はプラスとなっており、自然減を社会増でカバーをしていることで、現在人口は少しだけ増えている状況が続いている。
- ・市税が大変好調で、令和元年に初めて90億円を超え、令和6年は速報値では過去最高額の税収が見込まれている。この大きな要因として、企業誘致や地元産業の好調があげられ、固定資産税や法人市民税、市民税が増収となっている。
- ・合計特殊出生率は、全国や石川県で下がっている一方、能美市は伸びている。能美市は、子育て世代に選ばれており、また、もう1人産んで、育ててみようという方が多い。
- ・高齢化率は、ほかの自治体と比べてもそれほど変わらず、上がってきており、現在は65歳以上の方が26.4%となっている。100歳以上の方が現在44人いらっしゃり、内訳は男性5名、女性39名である。

○市内の状況

- ・岩内工業団地では、TOPPAN(株)が社名を変えてから初めて日本国内で能美市に進出された。
- ・加賀産業開発道路沿いの丘陵公園エリアには、多くの観光客が訪れている。
- ・いしかわサイエンスパークについても、今、取り組んでおり、もう少ししたら良い報告ができるのではないかと考えている。
- ・和田山古墳群周辺には、防災センターや警察署、能美ふるさとミュージアムができた。ふるさと歴史の広場もリニューアルし、滑り台を2台に増やしたことで、多くの人に利用してもらっている。
- ・能美工業団地には、日本ガイシ(株)、NGKセラミックデバイス(株)に進出いただいている。
- ・能美東西連絡道路沿いに、湯野こども園を新しく造っている。
- ・市内を新幹線が走るようになった。能美根上駅もこの20年の間に新駅舎が竣工し、昨年

からJR能美根上駅からIR能美根上駅に変わった。

・能美根上スマートインターチェンジが完成し、周辺にはスーパーホテルやすしべんができています。当初想定よりも多い台数の自家用車やトラックが利用しており、ホテルの稼働率も良い。

・加賀海浜産業道路が新しくでき、(株)歯愛メディカル、澁谷工業(株)、日野自動車(株)などが進出されている。福島こども園もあり、今後、総合商業施設もできると、大きな相乗効果が期待できる。

・学校給食センターやノミスタ、能美市立病院の健診センター、合葬墓など、様々な施設をこれまで造ってきた。能美市では地域共生社会を目指しており、インクルーシブパークも整備した。そのほか、学習センターの子ども宇宙科学室や九谷焼美術館 | 体験館 | のリニューアルなども行い、多くの皆さんにご利用いただいている。

・我々行政の最大の使命は、市民の安心・安全を守ることであり、様々な取り組みをしている。例えば、令和4年8月豪雨災害を受け、西川、熊田川、鍋谷川等の治水対策を行うとともに、大雨警報が出たときには、宮竹用水を排水として使えるようにした。

・大雪に備えて除雪車を大幅に増やし、町会・町内会が外部委託で除雪を行う場合、その費用を一部助成するなど、10本の雪害対策を行っている。

・地震を受け、大幅に備蓄品の見直しを進めており、数や種類を増やしている。

・防災行政無線の機械を新しくし、聞き取りやすくするとともに、LINEやメール等で様々な情報をタイムリーにお伝えできる仕組み作りも行った。

・消防、救急機器も充実させ、はしご車や防水・風水害車、高性能カメラドローンのほか、救急車を1台増やし、4台体制とした。

・火災防ぎょ訓練の実施や自衛消防団の活動支援も行っている。

○令和7年度予算編成方針

・能美市では、事業・施策の7本柱が全て移住・定住の促進につながるように取り組んでいる。

○20周年記念行事・事業

・2月1日に懸垂幕の設置、3日・4日にお祝い給食を実施した。記念式典は8日に挙行し、その後、記念コンサート、翌日記念イベントを実施し、全世代を対象にお祝いできた。

- ・3月15日にIRいしかわ鉄道の快速が20年ぶりに走った。能美市に停車することについて、大変感謝している。
- ・のみバスに新車両を導入した。能美電で走っていた電車をイメージしたデザインになっている。
- ・皆様のご協力を得て、市史の編さんを行っている。第1弾として、写真を多用して、子どもでも読んでもらえるように、図説編を作成した。
- ・8月28日にラジオ体操・みんなの体操会を行う。10月18日から「九谷・新世代の息吹」として公募展を開催する。九谷焼は間もなく400年を迎えるが、若手の作家をいかに応援をしていくかが大変重要である。
- ・20周年を記念して何か全国にPRできるような催しを行いたいと考え、10月26日に「なんでも鑑定団」の収録を行う。
- ・今年には能美電開通100年、廃線45年の節目の年である。能美電跡地の健康ロードを5年かけて整備し、駅があったところに看板をつける。また、北陸鉄道から、かつて貨物車両として能美電を走っていた「ED201」を頂くことになり、のみでん広場にある「モハ3761」を能美根上駅に移設し無人のコンビニとして利用する予定である。

3) 閉会